

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100251		
法人名	株式会社ふれあい介護センター		
事業所名	グループホームふれあい楚辺		
所在地	沖縄県那覇市楚辺2-20-2		
自己評価作成日	令和7年12月15日	評価結果市町村受理日	令和8年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100251-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和8年 1月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的でぬくもりある環境を作ります」という事業所理念を掲げ、民家を改築し家庭的な雰囲気を残し、中庭から日差しを取り入れることで、その日の天気や四季を感じて頂けるような環境作り心がけています。それぞれがこれまで営んできた生活を大切に、職員のペースを押し付けず、ご本人の意向を大切に「職員自ら受けたいと思うケア」を常に念頭におきながら、個々の要望に添った支援が出来るよう、日々のケアに取り組んでいます。又、職員は認知症への理解と知識が大切であると考え、法人研修、外部研修、沖縄県認知症グループホーム協会主催の研修への参加、そして那覇地区で認知症の勉強会を立ち上げ、他職種との連携にも努め、認知症の正しい知識を持った職員育成に力を入れています。認知症介護には地域の方の力も重要と考え「認知症サポーター養成講座」を行い、地域で支えられるような事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅街にあった民家を改修して、事業所に活用している。中庭には、グアバ等の果樹や樹木が植生しており、グアバを収穫しておやつに提供したり、中庭での散歩等、日々の活動に活用している。建物内部も住居であった特色を残し、玄関や廊下、階段など家庭的な住環境となっている。運営主体の法人は、ディサービス3か所、グループホーム4か所、訪問介護等の事業を展開しており、認知症サポーターの養成や研修等に法人全体で取り組んでいる。運営規程や各種マニュアル就業環境整備等、法人との協働運営体制が構築されている。職員のペッと同僚同伴出勤等、職員個々の状況や思いを反映した事業所運営に取り組んでいる。利用者個々の意向に応えたドライブや買い物支援等、個別的な外出支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入り口の見得やすい所に設置している。又、年度初めの勉強会で職員への周知、共有を図っている。	事業所の理念には、「であい、ふれあい、かたりあい」をめざした、地域密着型サービスの意義をふまえた内容となっている。リビングの共有空間に掲示し、職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会との関係は途切れているが、近隣の児童とイベントで交流したり、近隣を散歩するなど行っている。	事業所は、住宅街に位置しており近隣とのつながりを意図し、敬老会やハローウィン等の行事に保育園の児童との交流や、地域住民の方を招くなどの工夫を行っている。小学生のボランティアを受け入れており、地域との交流を深める工夫を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での問い合わせや施設見学時に実際の悩みや質問事項に丁寧に答えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年度からは規模を縮小し那覇市役所、包括支援センター、知見者のみでの開催としている。 ご家族様の参加も徐々に増えてきた。	運営推進会議は、奇数月に定期的を実施し、参加者は、行政(地域包括を含む)知見者の参加は確認できた。家族について地域の代表と位置付けた参加となっている。内容については、利用者やサービス状況・研修・ヒヤリハット等の報告や参加者からの意見を聴取し、事業所運営に活用している。地域代表者としての参加が確認できなかった。	地域代表を家族に依頼しているため、地域代表の選任・参加に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	那覇市グループホーム連絡会や運営推進会議等を通じて取り組みの報告や質問を行っている。	運営推進会議には、市の担当者が参加しており、情報共有を行っている。又、市のグループホーム連絡会に管理者が参加して、市との協力関係を構築している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自事業所のカリキュラムや県GH協会主催の勉強会への職員参加で身体拘束についての勉強会を行い、身体拘束が疑われる事案に対してもその都度話し合いを持ち拘束をしないケアが行えるよう取り組んでいる。	身体的拘束等の適正化のための指針が策定されており、指針に沿って身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会について年に4回の開催が、議事録で確認できた。研修については、グループホーム連絡協議会開催の研修に参加し、事業所で伝達研修を行い、職員に対する周知に取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	沖縄県グループホーム協会に加盟しており、協会主催の研修会への参加行っている。又、定期的に社内での勉強会を持ち、虐待防止について学び、意識付けを行いながら日々のケアを行っている。又、自身や他職員のケアを振り返り行うようにしている。	虐待の防止に関する取り組みとして、指針が策定され、虐待防止の対策を検討する委員会を設置し、委員会の開催が議事録で確認できた。研修については、事業所内で定期的に勉強会が開催されている。日々の申し送り時等、管理者は声掛けを行い、ケアの振り返りに取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	沖縄県グループホーム連絡会へ加盟しており協会主催の研修会に参加、事業所での研修会で権利擁護について学ぶ機会を設けている。後見人制度を利用している入居者様については定期的に連絡し、連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際にご家族へ分かりやすい言葉選びや伝え方を行い十分な理解を得られるよう努めている。又、分からない事や気になる点など後日でもご連絡いただけるよう伝えている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話、SNSを活用し日々の様子を伝え、要望などを伝えやすい環境作りに努めている。ご家族へ年に1度アンケートを実施し、頂いたご意見に関してはミーティング等で職員と共有、改善し業務やケアへの反映を行っている。	事業所の運営主体である法人は、毎年家族アンケートを実施している。アンケート結果については、本部で集計分析し、事業所へフィードバックされている。家族からの駐車場の利用についての意見があり、事業所内で検討し、改善した。家族の訪問時やSNSを活用し、家族の意見の聴取し、運営に反映する取り組みを行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや個別面談を職員と行い意見の言い易い環境作りに努め、業務や運営についての話し合える場を設けている。	管理者は、毎月開催される法人の管理者会議に参加し、事業所の運営状況について報告するとともに、設備の修繕等や職員の要望などを行っている。その結果、現在建物の修繕が行われている。職員意見の聴取については、毎月のミーティングや個別面談で実施している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員雇用制度やワークライフバランスを取り入れ職員の資格所得の手助けや勤務形態の相談に応じ、職員が能力を発揮しやすい業務環境を提供できるよう努めている。又、人事評価を年2回行い、評価によっては昇給も行われている。その他に年齢給、勤続給で年に1度はすべての職員が昇給する仕組みがある。	事業所では、定期的な健康診断を実施しており、法人によるストレスチェックの実施、ハラスメント窓口が設置され、職員の健康状態の把握に関する環境整備が行われている。又、働きやすい環境整備のために管理者による面談や評価システムが構築されている。職場におけるハラスメント防止に向けての、指針が整備され、職員に対する研修の実施も確認できた。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT, OOFJT等で職員の知識や技術の向上を目的とした機会を提供している。又、法人内で格子の登録制度を設け、勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協会、那覇市GH連絡会への職員参加で交流を図っている。又、事業所の見学受け入れやコロナ禍の為、パンフレットを活用した、活動報告等行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様からの意見や要望、困り事等に真摯に耳を傾け、安心してサービスを受けられる環境作りを心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とグループラインなどで連絡を密に行い、ちょっとしたことでも気軽に相談が出来るような雰囲気作りに努めている。 又、医療面での困り事等に対しても関係機関との調整や課題解決に向けた情報提供など積極的に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様への聞き取りや、ご希望の確認を行いイメージを持ってサービスが利用できるよう分かりやすく、選択肢を狭めないような説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等以外にも本人の出来る範囲での役割を持って頂き共同生活の中で利用者様同士が強力性を持った関係作りが行うよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にもチームの一員としてご本人のケア、外出や施設行事への等に積極的に関わって頂けるよう、案内や時間の都合が付きやすい日時での開催等の参加しやすい環境作りを行い関係性の構築に努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	LINEやSNSを活用し日常の様子を写真やブログで更新している。面会も適宜受け、ご家族様と交流が図れるようにしている。	利用者の日々の様子について、SNSを活用し、家族に情報提供を行っている。毎週訪問し、利用者の居室で食事会を開催する家族や入居前から通っていた美容室に、家族の協力を得ながら継続することで、馴染みの場や人間関係の継続を意図した支援を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、又は職員が間に入り共同生活の場として居心地の良い環境作りに努めている。又、外部行事にも参加していただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等の病状の変化やその他の理由により退所された方、ご家族様へはご相談があった際には快く相談に応じ、必要時には情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活ペースに合わせご希望の時間の入浴や食事の提供などを行い、個々の希望に沿ったサポートが出来るよう日頃の様子を職員間で共有し支援に努めている。	利用者の要望に沿って、ドライブ等の外出支援や近隣のスーパー等への買い物支援を行っている。買い物支援でセルフレジを職員介助で経験する取り組みを行った。室内での活動については、ビーズづくり等の手工芸や洗濯物たたみやおやつ作り等の日常生活について利用者個々の状況や意向に沿った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族、ご友人等にとの会話の中から入所前の生活の様子を聞き、ご本人が安心して生活が送れる環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日誌、カンファレンス等で日々の生活について把握を行いその時必要に応じた適切なケアが提供できるよう打ち合わせている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様に担当者を設け、定期的なモニタリング、カンファレンスで現状の把握を行い適したプランが提供できるよう作成を行っている。又、担当者会議においてもご本人やご家族、各関係者に参加頂き介護計画に反映している。	介護計画の作成・見直しについては、入居前のアセスメントや家族や関係機関からの情報収集を基に作成し、入居後については、各利用者に担当職員を配置し実施している。各担当者が中心となって、日々の状況を把握している。モニタリングは、3か月に1回の担当者会や毎月のミーティングでカンファレンスを行い、介護計画の見直しに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録だけではなく、ICTを活用し医療との連携、情報の共有を行いご本人の状態に即した支援が提供できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への受診対応や外出、外泊などご相談があった際にはご希望に添えるような支援の提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日にはリハビリもかねて近くの公園で散歩したり、近所のスーパーまで買い物に出かけたりしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望に沿った医療機関への受診時に職員付き添いや連携医療機関へのICTを活用した情報の提供で安心した生活が維持できるよう支援を行っている。	入居前からのかかりつけ医を継続している利用者と、入居後に本人や家族の状況に応じて訪問診療へ変更した利用者がある。事業所では利用者ごとの情報提供書を作成し医療機関と連携を図っている。通院は基本的に家族対応としているが、家族による送迎が困難な場合は、事業所が送迎に対応するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態の変化について看護師と情報を共有し、状態の変化があった際には24H体制で相談ができる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には過去の病歴やADL等について情報提供行い、適宜こちらからも連絡し、現状把握や治療内容について情報の共有に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様へは入居時に事業所に対応可能な支援について情報提供行っている。又、状態変化の際はその都度、話し合いの場を設け看取りが決まった方についてもその時々的心境の変化などを鑑みて本人、ご家族様にとってより良い支援が行えるよう努めている。	重度化や終末期ケアの指針を整備し、契約時や状態変化に応じて利用者・家族へ説明して同意書を得て方針を共有している。職員には看取りケアに関する研修を実施し、支援に対する理解を深めている。実際の支援にあたっては、訪問診療医や訪問看護師と密に連携し、利用者や家族の意向や心身の状態に配慮しながら、チームでの支援体制を整えて対応している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の研修やビデオ研修を用いて毎年、救急法についての研修を行っている。又、訪問診療や看護の際に急変時の対応について確認、注意事項等の確認を行い、職員間での共有を行っている。	急変時や事故発生時の対応マニュアルが整備され、緊急連絡網のフローチャートを事業所内に掲示している。事故発生時や緊急時の対応に関する研修も実施されている。ヒヤリハットや事故発生後には即時に報告書を作成し、毎日の申し送り時に職員で周知し改善策まで記録、月1回のミーティングでも再度話し合い再発防止に努めている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、自然災害発生時や感染症発生時の業務継続計画を策定し、研修や訓練を定期的実施している。感染症の予防及びまん延防止のために委員会の開催や指針の整備を行い、研修及び訓練を定期的実施している。	昼、夜間想定で、避難訓練を行っている。BCP委員会を設置し定期的に検討会を開催している。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施し、定期的な消防設備等の点検も実施している。備蓄品は米や水、衛生用品を備えている。災害発生時及び感染症発生時の業務継続計画が作成され、法人内で委員会を設置し、研修や訓練の実施の有無、計画の見直し等を確認している。また、感染症の予防及びまん延防止のための委員会の設置と議事録が確認できなかった。	感染症の予防及びまん延防止のための指針と委員会の開催、議事録の整備、職員への周知等が望まれる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の性格や心身の状態に合わせた声掛けや入浴やトイレなどの身体介助の際に同性介助を基本とし尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。	事業所内に個人情報保護方針および利用目的を掲示し、就業規則にも遵守事項として明記している。同性介助を基本とし、利用者の自尊心を傷つけない言葉かけや対応を心がけている。認知症ケアやプライバシー保護に関する研修を毎年実施し、職員の言葉遣いや対応に気づいた際には、管理者や職員同士で声を掛け合い意識づけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな映画や音楽等を気兼ねなく伝えられるような環境作りに配慮し日程の調整やご希望に添えない場合でも代案を提案しご本人の希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活スタイルを把握し、無理な誘導を行わず、本人のご希望に添えるような支援が提供出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人から希望の有った服や小物の購入支援や行事などでマニキュアやネイルで気分転換が図れるよう支援している。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様本人用の皿やお茶碗、箸を準備し使い慣れた食器で食事を楽しめるよう支援している。又、沖縄のおやつ(ムーチー、サーターアンダギー)等の慣れ親しんだお菓子作りを一緒に行ったり、食器洗いも手伝っていただいている。	毎食のご飯と汁物、副菜1品は事業所で手作りし、他の副食は配食を活用して温め、利用者一人ひとりに合わせた形態で、使い慣れた食器に盛り付けて提供している。庭で採れたグアバを使い、利用者と一緒にジュースや日々のおやつを手作りするなど、食事を楽しめるようにしている。職員はその日の状況に応じて、利用者と一緒に同じ食事を摂るよう努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定や食事の摂取量、食事形態、水分量の把握に努め、摂取量の増減に応じて食事形態の変更やお好きな物、たべやすさに配慮し無理のない範囲で摂取頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の心身の状態に合わせて口腔ケアシートやマウスウォッシュなどを活用し口腔衛生状態の改善に努めている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を記録等から行い、トイレ誘導の回数や時間での誘導などの工夫を行い、夜間もトイレ誘導を行える方はトイレに誘導し、自発的な排泄が行えるよう支援している。	排泄記録を取りながら利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、現在の排泄支援が維持できるよう努めている。日中は声かけや誘導のタイミング、案内方法を工夫し、重度の利用者を除きトイレでの排泄ができています。夜間は状態に応じてポータブルトイレも活用し、できるだけトイレで排泄ができるような支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の際に乳製品を提供したり、薬に頼らない排泄が出来るようなマッサージなど看護師と協力して支援している。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は本人の体調確認し異常が無ければ入浴支援を行っている。又、夜間、早朝に希望される方でもご希望に添えるような環境作りに努めている。	週2回程度で午前中に個浴、同性介助を基本とし、利用者の希望や状況に応じて柔軟に対応している。入浴を好まない利用者には関わり方を統一し、無理なく入浴ができるよう工夫している。冬場は寒暖差が生じにくいよう、事前に浴室を温めるなどの配慮を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のライフスタイルに合わせた就寝介助や午睡の支援を行い、自宅で生活していた時のような安心した生活を提供できるよう支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週に1度訪問薬剤師が来所し、薬のセットを行っている。その際に本人の状態を報告し情報の共有を行っている。又、状態に応じて薬剤師から医師への意見なども頂き、処方薬によっては副作用についても説明貰い、職員での情報共有を行っている。	服薬管理表と手順書が整備され、訪問薬剤師及び訪問看護による服薬セットが行われている。職員は服薬手順書に沿って支援を行い、誤薬防止に努めている。服薬内容の変更や副作用等については、その都度職員間で共有し、副作用等が出現した際には速やかに薬剤師や主治医へ報告し、安全な服薬支援に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙や切り絵、映画鑑賞等、ご希望に応じて気分転換が図れるよう、ご本人の能力に合わせた活動が継続できるよう支援している。また他事業所のイベントにも参加している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭を活用し、焼き芋や畑作り、花火等、入居者様の状態に応じて庭に出て頂く時間を作り気分転換が図れるよう努めた。ご家族様のご都合が合えばドライブ等に出かけるよう支援している。	利用者の希望に応じて日常的に買い物へ外出しており、週2回程度は利用者数名と職員でドライブにも出かけている。年1回は同法人の事業所が主催する祭りにも参加している。また、事業所の立地条件から坂道に面しているため戸外での散歩等は難しいが、日常的に事業所の庭に出て草木を観察したり、縁側でおやつを食べるなど外気浴の機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人での管理が難しい方は事業所や社会福祉協議会の金銭管理、後見人が管理、ご希望の際は本人様、又は職員が代わりに買い物へ行き希望に添えるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から電話があった際にハンズフリーにして会話が楽しめるよう支援している。又、ご本人での会話が難しい方に関しては職員が代理で状態の報告を電話、手紙、lineで行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節に合わせて切り絵や折り紙を飾ったり、庭に植えてある柿、バナナ、グアバ等の果物やひまわり等の花を植え窓から観察できるよう支援している。	2階建ての住宅を事業所として使用しているため、家庭的な雰囲気があり、共用スペースは台所から食堂兼居間が見渡せる造りとなっている。大きめのテレビが設置され、その前にソファが配置されており、利用者は好みの場所に座って余暇を過ごしている。食堂兼居間からは庭が見え、グアバの木など緑が多く、落ち着いて過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が思い思いに過ごして頂けるようフロアには1~2人掛けのソファを配置、食事の際は仲のいい入居者様同士で食事頂けるよう席の配置を行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家からテーブル、思い出の写真等、思い入れのある物を持ってきていただき、本人が過ごしやすく慣れ親しんだ環境で生活できるよう支援している。	各居室にはベッド、エアコン、タンスが備えられており、利用者は使い慣れたテーブルやラジオ、テレビ、家族の写真などを持ち込んでいる。転倒予防や起き上がりやすさ、採光等に配慮し、利用者の状態に合わせて家具を配置している。ナースコール設備は設置されているが、劣化等により未整備の居室もあるため、代替機器の設置などの対応が望まれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線が確保できる環境整備やご自身で座ったり立ったりできるよう椅子の変更等行っている。		